様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	生活・健康系コース（保健体育）／梅野　圭史

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

①授業実践は、言うまでもなく、総合科学的な営みである。これより、本学におけるコア・カリキュラムの科目である「初等中等教育実践基礎演習」、「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、および「教職実践演習」の一貫性と連動性が担保される必要がある。このことから、今年度より梅野が「初等中等教育実践基礎演習（1年生）」、「初等中等教科教育実践Ⅱ（2年生）」、「教職実践演習（4年生）」を担当することから、これらの授業内容に一貫性と連動性が保たれるような内容の授業を展開させたい。
②以下の内容は、昨年度と同様であるが、継続性が重要であると考えられることから、今年度も記述することにした。すなわち、講義では、1授業1テーマによるテーマ学習を展開し、学生の理解を深めていきたい。とりわけ、学校現場の問題に焦点づけたテーマ学習を展開させたい。加えて、「試験―再試験」を行い、講義内容の理解を徹底したい。また、レポートの場合では、講義の内容を基軸に内容の拡大と深化をねらうレポートの書き方指導も展開させたい。

2．点検・評価

中間報告で示した内容にしたがい、最終報告する。
①「初等中等教育実践基礎演習（1年生）」では、まだ入学して間のない学生に体育授業の課題うつしのマイクロティーチングをさせることは困難である。そこで、「スーパーマンとウルトラマン、どっちが強い！」とするテーマで、各自に課題うつしの教授技法を考案させた。学生が創案したテーマを挙げれば、「カッターとはさみ、どっちが便利？」「マンションと一戸建て、どちらに住みたい？」「うどんとそば、どちらを頼む？」等々、ユニークな題材を考え、教師の思う方向に子どもを向けさせる教授技法を修練した。「初等中等教科教育実践Ⅱ（2年生）」では、教師行動観察法による授業分析を行わせ、全員分析結果の一致率が80％以上となった。
②1授業1テーマによるテーマ学習を展開し、学生の理解を深めることをねらいに実践した結果、学生評価が総合で「4.2」であり、授業概要や授業内容では「4.6」の高値を得た。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①卒業論文指導および修士論文指導を従来の通り、学校教育実践に直結した内容の指導を展開させるとともに、教員の採用に尽力したい。
②博士論文指導では、主指導教員としての学生の指導に尽力したい。
③一昨年度、学長表彰を受けた男子および女子バスケットボール部の戦力を保持し、今年度も最低でも四国大会ベスト4を確保したい。
④男子および女子バスケットボール部のOB会とOG会の組織力を高め、現役学生との交流を深めていきたい。

２．点検・評価

中間報告で示した内容にしたがい、最終報告する。
①私の研究における卒業研究学生４名のすべてが教職に就くことができた。
②私の研究配属の博士課程の学生は、学会活動（３度の学会発表）と3編の論文作成を達成した。
③女子バスケットボール部：四国ICで準優勝を果たし、男子バスケットボール部：四国ICで3位となった。
④男子および女子バスケットボール部のOB会とOG会が台風で流れたのが残念であったが、援助金等の活動では現役学生への支援が高まった。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

①すぐれた教師の実践的知識の解明とその実践的適用を企図して、「教師＝身体」の立場から教師の成長プロセスを可視化する研究をさらに深めていきたい。すなわち、昨年度に登載した「体育授業における教師の感性的省察の実体とその深化」を基盤に、感性的省察が具現化された指導技術発揮力の自覚が教職経験年数によってどのような影響を受けるのかについて統計的検討を施したい。
②「プロセス－プロダクト」研究法の発達に伴い教師の教授戦略は発達してきたが、子どもの学習戦略の形成に関してはほとんど手つかずの状態にある。そこで、一昨年度から取り組み始めた子どもの学習ストラテジー（方略・戦術・戦略）の因子分析的研究を基盤に、どのような学習ストラテジーが彼らの学習成果に結節するのかについて実践的に検討したい。

２．点検・評価

中間報告で示した内容にしたがい、最終報告する。
①日本体育学会にて、「教職経験年数という条件が体育授業における教師の指導技術発揮の自覚に及ぼす影響」と題して、因子分析的研究を発表した。これ以外に、「体育科教　　育」という商業誌の特集に「プロフェッショナル体育教師への成長プロセス」が選定され、私と博士課程の学生の双方に執筆依頼があり、投稿した。
②民間研究団体「身体教育研究会」において、子どもの学習ストラテジー（方略・戦術・戦略）の因子分析的研究を基盤に、二人の小学校教員の体育授業に支援的介入実践を行っ　　た。いずれの教師の体育授業も学習成果が高めまり、子どもの学びの行動様式に変容が認められた。両教員とも、成果を喜んでくれた。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

昨年度、初めて学部入試委員を務め、大学における入試業務の重要性を実感した次第である。しかしながら、暗中模索な状態であり、業務を見通すことができなかった。今年度も引き続き学部入試委員を務めるので、自ら進んで業務を発案したり、実行したりできるように努めたい。また、入学時の学力とその後の授業成績との関係および採用試験合格との関係についての追跡調査の主査として、よりよい成果が公表できるように努めたい。

２．点検・評価

中間報告で示した内容にしたがい、最終報告する。
入試の段取りが見えるようになり、自分なりに入試業務を楽しむことができた。また、平成１７年度から平成２０年度にかけての入学者選抜に関する追跡調査を、主査として刊行でき　たことも喜びである。関係各位に感謝する次第である。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①小学校教員の有志で組織・運営している「体育教育研究会」（会長：梅野圭史、創設年：平成8年4月8日）の研究と実践の活動をより一層に発展させていきたい。具体的には、昨年度から懸案になっていた実践研究の出版を実現させたい。現在、大阪支部、兵庫支部、岡山支部、香川支部の4支部構成で運営しており、年々本学の卒業生が会員となってきているので、この面での充実（会員の増加）を図りたい。
②本学におけるコア・カリキュラムの科目である「初等中等教育実践基礎演習」、「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、および「教職実践演習」の一貫性と連動性が担保する必要性から、附属学校の先生にも主旨を理解していただき、授業内容の連動性を高めていきたい。

2. 点検・評価

中間報告で示した内容にしたがい、最終報告する。
①一年を通じて毎月定例会を開くことができた。新入会員も教員５名（うち、新卒者３名）と中国学園大学学部生４名、本学学部生４名の計１１名と増えた。
②コア・カリキュラムの科目である「初等中等教育実践基礎演習」、「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、および「教職実践演習」の一貫性と連動性を附属学校の先生に理解してい　ただくことができ、授業が円滑に進展した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

生活・健康系連合教育講座の副代表として業務を遂行した結果、次年度の講座議長に選出された。より一層に尽力する覚悟である。